

(前回よりつづき)

人間個人の知識は、どんな学者であっても、いわゆる附知恵であつて、宇宙の理法の教ではない。人間界の學問は範圍が狭く、唯分解分解で一つのを分析し批判し、破壊するだけである。この知識を基礎としている人道主義によつては人間完成は道遠しというのほかはない。今日の世は人が物を学び、知識で人道的な精神を打込み、人の知識の世界に真理があると思ひ込み、人の知識で宇宙の真理を組立てているに過ぎない。

知識は人間に必要であるが、知識を主體とすると個人主義となる。個人主義は争いを生み、物質慾に競争心をあおり、名譽慾に競争心を作り、すべて争いを生ずるのである。個々別々に主張して、互いに譲らないから分裂の世となっている。精神的に歩調をそろえるには、宇宙の大教育を導いて進むよりほかないのである。宇宙真理に理解がないと片道となり、小さく狭く行詰る。體的一方の教に精神的を結んで、精神的・體的を合せて、宇宙の真理を基とした人間生活を行わねばならない。人間知識でこの世を生活するのは神の世界を乗取り、逆らっていることを意味するのである。真理の道を進まず、天意に反した行いで進み、言葉を聞いても、自然の天意に反した言葉遣いとなっている。この故に天意に反する心が起こつて、天の罪を重ね、恬(テン)として恥ずるところがない。精神的に間違いを起こすと、この世は靈界の移写であるから、體的にはより以上の間違いを引起こすのである。精神的教養を身につけていない人は心の盲と評してよい。靈界を知るならば精神的を主として、宇宙の大精神は神の御活動であるという真理が判るのである。

(つづく)